

「わんぱくフェスティバル」秘話 始まり、現在、未来へ

わんぱくフェスティバルは、1968（昭和43）年、横須賀市が主催し、衣笠公園で行われた「少年少女の集い」が、始まりのようです。その後1970（昭和45）年、1973（昭和48）年および1980（昭和55）年に、この名称での開催記録がありますが、定期的だったかどうか、定かではありません。

「わんぱくフェスティバル」の名称で、毎年開催されるようになったのは、1984（昭和59）年から。この年の新市庁舎竣工に合わせたのかもしれない。その後「国際親善わんぱくフェスティバル」という名称で、1989（平成元）年から、少なくとも2001（平成13）年まで行われた記録があります。



さらにその後「よこすかわんぱくフェスティバル」の名称で、2006（平成18）年から2008（平成20）年まで行われた記録があります。この変更は、2003（平成15）年にスタートした「よこすか開国祭」か、2007（平成19）年の「市制施行100周年」のどちらかに、関係あるのかもしれない。

この名称変更に関係ありそうな出来事として、1989（平成元）年に、横須賀市が「核兵器廃絶・平和都市宣言」をしていきます。また、1984（昭和59）年、横須賀市が主催し、衣笠公園で行われた「少年少女の集い」が、始まりのようです。その後1970（昭和45）年、1973（昭和48）年および1980（昭和55）年に、この名称での開催記録がありますが、定期的だったかどうか、定かではありません。

た国内では、昭和から平成に新・市庁舎竣工

わんぱくフェスティバル

核兵器廃絶・平和都市宣言
改元(昭和→平成)
天安門事件
ベルリンの壁崩壊

国際親善わんぱくフェスティバル

翌2009（平成21）年からは、当時の当協議会副会長・荻澤雄一氏と庶務・吉田徹氏の獅子奮迅の働きにより、主要参加団体による実行委員会を組織。名称も「わんぱくフェスティバル20XX」として、再スタートしました。この年「わんぱくフェスティバル2009」を総合福祉会館で開催できたのも、翌年以降の行政支援を取り



「よこすか」をもち、横須賀市主催による開催は、最後を迎えました。

ぱくフェスティバル」(この年に横須賀市青少年育成推進員が設置)から参加し、次第に主要な役割を果たすようになります。しかし2008（平成20）年、通算25回目をもち、横須賀市主催による開催は、最後を迎えました。

付けられたのも、お二方の尽力によるものです。



よこすか開国祭開始
よこすかわんぱくフェスティバル
市制施行100周年

2010（平成22）年からは、会場を神奈川県立保健福祉大学に移し、2017（平成29）年は台風19号のため中止となりましたが、2019（令和元）年まで毎年開催され、内容的にも充実し、数千人の来場者を見込む大きなイベントに育ちました。

総合福祉会館で開催
チョコバナッピー誕生
「わんぱくフェスティバル20XX」中止(台風19号)



広報研究部会・小林正和



してから12年が経過し、実行母体・内容ともに、リニューアルを考える局面に差し掛かっているのかもしれない。

中止(コロナ)
中止(コロナ)

コロナに打ち勝て
研究部会活動

広報研究部会
部会長・番場清隆

コロナ禍で
活動できなかったと
思われるかも

知れませんが、

今期（令和2〜3年度）は、コロナ禍に翻弄され、協議会4研究部会も中学校区地域連絡会も、全体として活動していなかったように思われるかも知れませんが、実際には、コロナ感染予防対策を講じて、様々なイベントが、屋外を中心に開催されています。中止となったイベントも、最初から何もしなかったのではなく、コロナ禍での開催を予定して何回も会議を開き、協議し、工夫したものの、止む無く...というも

ABOUT US

「青少年育成推進員」（以下、推進員）は、横須賀市独自の制度です。連合町内会長が推薦し、横須賀市長が委嘱します。また、県の青少年指導員も兼ねています（神奈川県知事が委嘱）。

定員は中学校区ごとに決められており、全23中学校区合計で160名になります。

任期は1期2年となっており、令和2年4月1日から令和4年3月31日の今期は、第8期に当たります。

中学校区ごとに、町内会・自治会や青少年関係団体、学校などと連携して、青少年の健全育成活動や非行防止活動を行っています。

一方、全推進員による「青少年育成推進員連絡協議会」（以下、協議会）が組織されています。協議会では、中学校区を横断する推進員により、4研究部会
育成研究部会
環境研究部会
研修研究部会
広報研究部会
が運営されています。

ACTIVITY

横須賀市青少年育成推進員・連絡協議会

のが多々あり、非常に残念でなりません。しかし、これら全てを含めて、立派な青少年育成活動と言えるのではないのでしょうか。

広報研究部会の役割は、他の3研究部会と中学校区のイベントを取材して「よこすか育成通信」に掲載することです。今（31・32合併）号では、推進員が本気でコロナに立ち向かった記録を最大限掲載できるように、部会員一同がんばりました。

研修研究部会

部会長・中尾洋子

推進員の皆さん、今期の活動に参加して楽しかったですか？

皆さんご存知の通り、コロナ禍の緊急事態宣言発出にもなう様々な制約の中、毎月の会議も、換気しながら1時間を目安に、密にならない様、気をつけての開催となりました。

その会議で、新任推進員からの「他のボランティア団体の様なインパクトがない」との発言に、推進員歴14年の私がこれまで見聞きした活動の色々や、自ら企画・運営してきた活動の様々を、気付いたらとても熱く語っていました。

参加した事を後悔して欲しくないと思ひ、この活動を好きになって欲しいと願って、熱弁してしまいました。私は、今期、活動ができ

ていないことを、すっかり失念していたのです。

確かに毎月の会議でも、創意工夫が足りなかったことは否めません。「何か活動ができるのか？」ばかりを考え、悩んでいるばかりでした。そして今、何か横の繋がりを感じられる様なことを、企画できれば良かったなあと思っています。

私のモットーは「できることを、できる時に、無理なく」です。これから大人の私たちが楽しみながら子どもたちを見守る活動ができることを願うばかりです。

夜間パトロール

12月21日（火）

横須賀中央駅〜汐入駅 毎年8月と12月の役員会終了後に、夜間パトロールを実施しています。8月は、緊急事態宣言下のため中止。12月は新規感染者数が十数人/日に減少しており実施。横須賀の街も、少しだけ賑わいを見せていました。



非行防止
キャンペーン

11月13日（土）横須賀中央駅周辺

参加者30名（推進員27名、その他3名）

冬の始まり、雲一つない晴天に恵まれましたが、昨年同様、推進員のみでの開催となりました。

「かけよう一声！なくそう非行！」の横断幕を張り、のぼり旗を手に持ち、準備完了。



「今年には推進員全員で呼びかけを行います」との環境研究部会長からの指示で、順番に拡声器を手渡

され「困りごと、相談ごとがあったら、警察や大人に相談しましょう」「大人はあなた達を見守っています」と呼びかけました。



Yデッキに並べられた中学生が描いた71枚の非行防止キャンペーン・ポスターの前で、行き交う人が足を止めて見入っている姿も見受けられました。



今年も、駅前広場にそびえ立つメタセコイヤの大きさが、見守ってくれました。広報研究部会・飯田功

パネル展示

11月8日（月）〜12日（金）、キャンペーンの一環として、今年も市役所北口掲示板に、入選作を中心に、

非行防止キャンペーン・ポスターを展示しました。



募集テーマ「中学生が考える非行防止」にに応じてくれた作品は、ポスターの出来はもちろん、中学生の皆さんの非行防止に対する考えやメッセージが、よく表現されていました。環境研究部会

ABOUT CAMPAIGN

内閣府が主導する『青少年の非行・被害防止全国強調月間』
◇ 学校が夏休みに入る7月に、関係省庁・地方自治体及び民間関係団体と連携して展開

『子供・若者育成支援強調月間』
◇ 子供・若者育成支援推進大綱を踏まえた取組を、国民運動として総合的に展開する契機として、11月に設定に合わせて、毎年行っている活動です。





【紹介編】
中学校対抗
ウォークラリー
大会とは？

市内の中学校区を開催地として、横須賀の素晴らしい史跡や景勝地を廻り、子

第15回中学校対抗ウォークラリー大会

「光る海、風薫る丘、牧水ゆかりの地を歩く」

「光る海、風薫る丘、牧水ゆかりの地を歩く」

【行動編】
ウォークラリー・
シミュレーション

コロナだから何もできないではなく、安全な開催への模索と、未経験の方にもラリーの素晴らしさを体験してほしいとの思いで実施しました。参加者から「とても良かった。楽しかった。そして来年度こそは実現させたい」とのうれしい感想もいただきました。まだまだ改善点もありますが、やって良かったです。

育成研究部会長
木藤ひろみ

どもたちに横須賀の良さを発見・再認識してもらい、横須賀への愛着を深めて欲しいと願って、毎年実施しています。

【準備編】
コースづくり

それぞれ10人ほどが参加して、計3回、下見を行いました。
1回目は5月15日(日)。
主要な名所
① 若山牧水「夫婦歌碑」
② 三浦一族の津久井次郎 義行公の碑の立つ「東光寺」
③ 純日本風茅葺屋根と日本庭園の「万代会館」を巡りました。東光寺あたりの青々と広がる畑の風景を見て「三浦半島の恵み豊かな台地を歩こう」を、大会のサブタイトル候補とし

「しら鳥は
かなしからずや
そらの青
海のををにも
そまづたよふ」



教科書にも載っていた、この若山牧水の短歌を、ご記憶でしょうか？
旅を愛し、酒を愛した若山牧水。横須賀に在住したのは、わずか2年足らずですが、今大会は、その牧水ゆかりの地、北下浦中学校区で、この「しら鳥の歌」(背面には喜志子夫人の歌)が刻まれた、長沢海岸の夫

▼整列後、順にエントリー



12月11日(土)北下浦中学校周辺
参加者24名(育成研究部会員他)
参加者を、受付員、誘導員、本部記録員、ゲームスタッフ、中学生役に振り分け、本番と同じスケジュール

▼ゲーム



▼5分間隔でスタート



ルで実施しました。体験後、全員が集合し、問題点を出し合い、その場で2、3の改善意見が出る

▼集計



▼ゴール



など、取り組む姿勢は真剣でした。
私は中学生役になって、夫婦歌碑に刻まれた牧水の

▼閉会式・表彰



歌を読みながらクイズを考え、津久井浜の砂浜でゲームをしたり、心臓破りの急勾配の坂がある長沢公園を登ったりと、所要1時間55分のウォークラリーを体験しました。
私にとって初めてのウォークラリーを中学生の目線で体験できたことは、今後の活動に役立つものと感じました。
広報研究部会・飯田功

婦歌碑をコースの一部として、行われる予定でした。昨年度はコロナ禍により中止になりましたが、その後1年近くかけて、実施体制、衛生対策、感染防止対策など、多くのことを協議してきました。
安全な大会開催に向け、例えば、夫婦歌碑のすぐ近くの長岡半太郎記念館・若山牧水資料館には、参加者の密を避けるため、中に立ち入らないことなどを決めました。
参加募集が始まると、ありがたいことに8校17チームものエントリーがありました。ゲームのエンタリーにより、最終的に今年度も中止せざるを得ず、残念でなりません。
主会場の北下浦中学校、ゲームお手伝いの津久井浜高等学校、エントリーしてくださった各中学校の先生、

生徒、コースづくりに参加してくださった地域の皆様など、ご協力くださった方々に、深く感謝いたします。
来年度こそ、この北下浦中学校区で大会開催をリベンジできるように、心より祈っています。
育成研究部会・高橋牧生



2回目は6月20日(日)。快晴で真夏のような日差しの中、範囲を広げ、長沢海岸から「三浦しらとり園」、久里浜霊園の「三浦大仏」を経由して登り下り。次いで、ひと山超えて京急長沢駅側へ登り下り。さらに「みかん園」へと登り下り。続けて3回の登り下りは、かなりキツく、マスクのせいで呼吸困難になりそうで、皆の後ろを離れ、マスクを



て提案しました。



3回目は7月25日(日)。スタッフの配置やコースの危険箇所確認などを行いました。



外して登りました。

道標設置場所検討▼

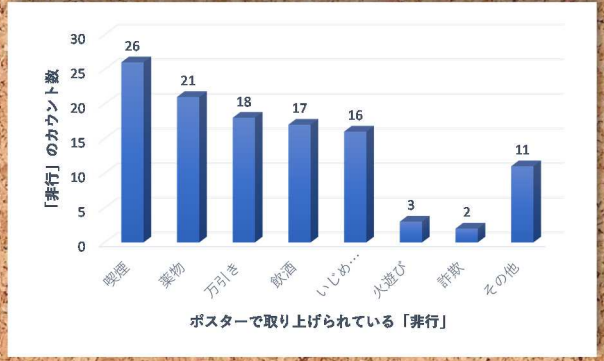


さらに、三密にならないようなゲームのやり方、時間短縮のためのコース縮小の検討などを予定していましたが、大会そのもの中止にもない、未実施になりました。
育成研究部会・高橋牧生



【募集テーマ】
中学生が考える非行の防止

令和元年から始まったこの企画に、今年も素晴らしい作品で、協議会内ばかりでなく、横須賀市からも高い評価を得ています。
作品内の標語・イメージで取り上げられている「非行」のカウント数を、以下のグラフに示します。「いじめ」では携帯電話やPCを使った誹謗中傷が多く取り上げられています。また「その他」には窃盗、深夜徘徊、暴力などが取り上げられています。（環境・広報研究部会）



非行防止キャンペーン・ポスター募集



全77点

「中学校区」発信

「池上ウォークラリー大会」

7月25日（日）9時、夏の晴天下、池上ウォークラリー大会が、池上町内会の9団体45名の協力により、開催されました。コースは池上町内を巡るAとBの二つ、参加者は28チーム計109名でした。



コロナウイルス感染予防のため、2年連続して祭礼中止となる中、池上神社の池若（祭礼運行団体）から、ウォークラリー大会を開催したいので協力して欲しいとの要請を受け、企画運営に協力することになりました。祭礼では、宵宮の出店と祭礼当日の子ども神輿と山車の運行で、子どもたちは、大はしゃぎで楽しい時を過ごすはずでしたから、このウォークラリー大会は何と

しても開催したいと思い、他の7団体にも協力要請し、5回の会議を経て、開催にこぎつけました。

当日、祭礼のお囃子が流れる中、8時半から参加受付を開始しました。受付の待ち時間、子どもたちは、用意した太鼓を楽しくそうにたいていました。

参加した子どもたちは、オリジナルの手作りトートバッグを持ち、約1時間、2コースに分かれて、各4か所のチェックポイントでクイズを解き、ラリータイムを競いました。設定タイムに近い順に賞品が渡された他、チェックポイントでも参加賞を受け取って、満足そうでした。

コロナ禍と真夏日での開催で、参加者もスタンプも、体調が心配されましたが、無事終了しました。こんな時期でも、皆さんの笑顔を見られて、大成功の開催でありました。

池上・番場清隆

自転車教室

「危ない！」坂道から飛び出す自転車に人も車もドッキリー子どもたちが事故に巻き込まれないようにと始めた



「お婆さんがいるよ」「交差点の横は見えないよね？」「公園横はボールが飛んでくるかも！」など、要所の

「自転車教室」を、11月13日（土）、4年ぶりに開催しました。参加者は、当日の飛び入りも含め、小学生26名、園児8名、3歳児1名の計35名でした。

受付で名前確認、検温を済ませ、体育館へ。交通課のおまわりさんの、クイズを交えた自転車の話。一本当は大人の人も知らなかったり、勘違いしてることもあるんですよネ？」に周りの大人は苦笑い。

ビデオでおさらいをした後、校庭へ。校庭では、自転車屋さん、子どもたちの自転車のタイヤ空気圧、ハンドルやブレーキの調子などを点検修理箇所があれば、チェック表に記入して保護者へ。

鷹取音楽祭

コロナの影響で延期されていた「鷹取音楽祭」を、11月27日（土）、無事開催できました。

説明の後、自転車に乗って実技のスタート。おまわりさんや防犯委員のおじさんたちに緊張しているのか、一度自転車を降りてしまうと「乗ってもいいんだよ」の声も聞こえず、最後まで押し歩きの子も（笑）。10秒かけてスロースタートで走るコースは、意外と「ゆっくり走るのメチャ難しい！」とのこと。

久しぶりの開催に加え、コロナ感染対策もあり、少々不安でしたが、子どもたちの「楽しかったよ」の声に、やって良かったと思いました。

ただ、最近ローラーボードで出かける子も多く、もっと危険度は増しているような。次年度以降の課題となりそうです。最後に、田浦警察署交通課、鷹取小学校、防犯対策委員会の方々の協力があった開催できた教室だったと、感謝いたします。

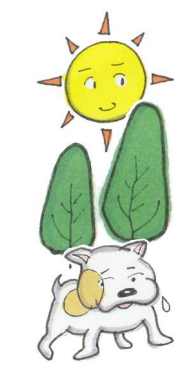
鷹取・青野ユリエ

昨年と同様のバンド演奏とお囃子会に加え、今年も、ギターや弾き語りが出演。その素敵な歌声にうっとり。寒さも忘れそう...だったのに、ポツポツ雨が、だんだん小雨に。太鼓、楽器などの器材にカバーを掛けたり、一時はバタバタしましたが、お囃子の獅子舞が雨を追い払ったようで、ほどなく止み、無事終了することができました。



今年は、後ろの壁に鷹取小学校6年生が描いた壁画が、色を添えてくれました。来年の夏には「たかとり祭り」の舞台で、思いきり歌い、演奏できることを、心より願うばかりです。

鷹取・青野ユリエ



地域パトロール

久里浜・神明・
岩戸中学校区

8月25日(水)19時ごろ、地元団体による「くりはま」
「夢」花火&いわと「夢」
花火が行われました。花
火が上がるたびに、歓声を
上げる親子の顔が明るく浮
かび上がって、楽しさが伝
わってきました。



終了後、久里浜、神明お
よび岩戸の各中学校区の推
進員は、それぞれの地域で
パトロールを行いました。
楽しい気持ちに水を差さな
いよう、優しく見守りなが
らも「早く帰ってね」と、
声掛けをしながらのパトロ
ールでした。

公郷中学校区

例年夏・冬の2回、小中
学校PTAと地域連絡会の
40名ほどで、3コースに分
かれて実施しています。
今年8月27日19時、
推進員・育成担当者6名で、

公郷交番付近から六つの公
園を経由して北久里浜駅付
近までのコースを、廻りま
した。

このパトロールは、学校
関係者や保護者と自然に情
報交換できる、良い機会で
す。これからも多くの参加
者で実施できることを、期
待しています。

コロナ禍に 推進員を経験して

私は、他校の中学生同士
の交流・発表の場は、非日
常の経験であり、一生の思
い出になると考えます。私
自身がそうでした。です
から、二大行事(わんぱくフ
エステイバル、中学校対抗
ウォークラリー)が、2
年連続して
中止になっ
たのは、非常
に残念です。
「あつもの
に懲りてな
ますを吹く」
(クラスタ
ー発生を恐
れて青少年
の行事をあ
きらめる)こ
とのないよ

ゆうやけこやけ

定年退職してから15年。健康維持のため毎日朝夕1時間、平作川の川面を観察しながら散歩しています。河口から5kmくらい離れていますが、海からボラなどの魚が遡上してきます。

3種類の鷺(白、青、へら)が冷たい川辺に30分以上も佇んで魚を狙っている姿や、海鷗か川鷗か定かではないけれど、前後左右自在に潜り魚を啄んでいる姿もあります。また鴨やカイツブリが優雅に泳いでいる姿や、清流にしか棲まないとされるカワセミが飛んでいる姿も見られます。

—平作川の水も、
すっかり綺麗になりました—

散歩しながらいろいろな光景を見ると、目の保養にもなります。皆様も近くにお出かけの際は、ぜひご覧になってください。

青少年育成活動に携わって45年になりますが、この2年間は、新型コロナウイルスのため、不完全燃焼の状況です。これからは犬を友として散歩を続け、身体の許す限り、子どもたちに元気を与えられるよう頑張っていきたいと思ひます。(KS)

【編集後記】
◆ 今だからできることを
◆ 諦めない底力と
◆ 逆転の発想で
◆ 挑戦者となつて
企画会議での話し合いから感じられた4つの意気込みを、我々推進員や地域で活動されている方々に伝えようと、31・32合併号に折り込みました。今後とも今年と同様な環境が続くであろうと思ひますが、これらを念頭に頑張りましよう。(T・O)

う、文句なし万全の対策を講じて、来年こそは開催できるよう、がんばりましよう。(鷹取・森田攻)

表彰式・ 活動体験発表会・ 講演会

2月12日14時、
横須賀市立青少年会館
開会の言葉、冒頭あいさ
つの後、次の2件、3名の
方の表彰式が行われました。

神奈川県青少年指導員表彰

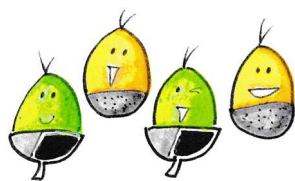
衣笠・角井 満
公郷・原田 修

青少年育成活動推進員表彰

神明・中尾 洋子



続いて、衣笠、久里浜お
よび池上各中学校区による、
活動体験発表がありました。
オミクロン株による感染
が拡大する中、学校および
町内会・自治会関係者には
お声がけせず、推進員と横
須賀市関係者のみの聴講と
なりました。
最後に、横須賀市こども
家庭支援課係長・池田勲さ



んから
「子ども
達が街中
で見掛け
なくなっ
た事につ
いて」と
いうタイ
トルで、
ご講演い
ただきま
した。

